

川崎市

公文書館だより

50

生

史料

はじめました。

■ 生史料はじめました。

【企画展示】 第21回 川崎の近世史を辿る

【出張展示】 社会教育施設が映す戦争の時代

—官・民が交差する公共の「場」—

■ 川崎今昔写真館

-昭和20年の川崎駅前-

■ 新収蔵史料紹介！

-職員おすすめの歴史的公文書-

■ 出来事とお知らせ

今後の行事予定／令和7年度の活動／令和8年度の活動予定

／開催中の展示



生史料はじめました。

－【企画展示】・【出張展示】解説！－

【企画展示】あなたに伝えたい記録と記憶

第21回 川崎の近世史を辿る

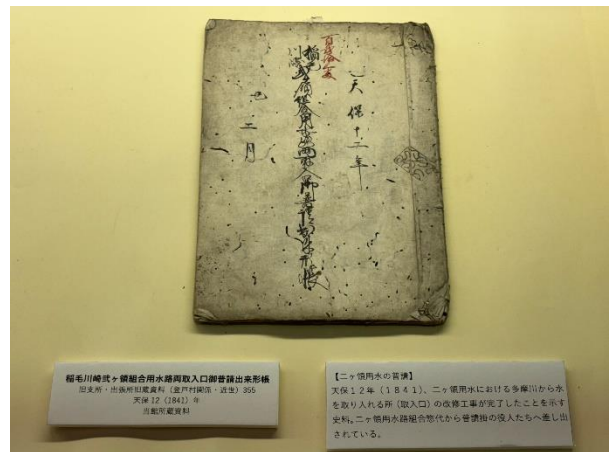
2026年4月1日（水）から第21回企画展「川崎の近世史を辿る」がスタートしました。



今回の展示は川崎地域（後に市域となる範囲）における近世史を概観する内容です。そもそも、日本の「近世」という時代はどのような特色があるのでしょうか。「近世」とは、大体は織田・豊臣政権を中心とする「安土・桃山時代」から幕藩体制の「江戸時代」までを指します。本展示では、まずは「近世」の特質について少し立ち止まって考えていただこうということで、いくつかの特色をパネル解説で提示しました。幕藩体制・身分制社会・農業中心経済・商品経済・流通経済・海禁政策（鎖国）・町人文化の諸項目について解説しています。東国の武家政権と各藩を中心とする260年余りの比較的安定した国家が築かれた時代は様々な要素で構築されていると言えます。安定した国家だからこそ、豊かな文化も根付いていきました。「近世」とは如何なる時代なのかということに考えを巡らしていただき、「中世」や「近代」とは何が異なるのか、ぜひ考えてみてください。

展示ケースでは、6点の「生史料」を展示しています。川崎地域に残る検地帳や多摩川・二ヶ領用水の普請に関する史料、百姓の願書、質地証文、関東取締出

役に関する史料、です。くずし字で記された史料ですが、解説とともに少しだけ覗いてみてください。今回の展示史料は当館所蔵のほんの一部であり、まだまだ紹介したい史料は沢山ありますが、厳選してお届けしております。これらの史料を通して川崎地域の人々の様相を想像していただけると幸いです。



小田原北条氏が滅亡し、徳川家康が関東に入封したことで、徳川家による関東支配が始まります。パネル展示では徳川家と川崎の統治、近世川崎に出現した多才な人物である小泉次太夫・田中丘隅（休愚）・池上幸豊について、そして、近世川崎の各地を見る！ということで、川崎地域の宿場・村を解説しています。全ての村を網羅することは叶いませんが、自分の住んでいる地域の村などがあればぜひ解説を読んでみてください。

今回の展示は川崎地域を起点に「近世史」とは何かを考えてみていただきたいということで企画しました。川崎市公文書館の展示ではこれまで近現代史が中心でしたが、近世文書の所蔵も多く、今回の展示を機会にぜひ「川崎の近世史を辿る」ことで皆様の歴史像を膨らましてみてください。

【出張展示】川崎市平和館 かわさき大空襲展

社会教育施設が映す戦争の時代

—官・民が交差する公共の「場」—

川崎市公会堂 【開館：大正 15 年(1926) 2 月】



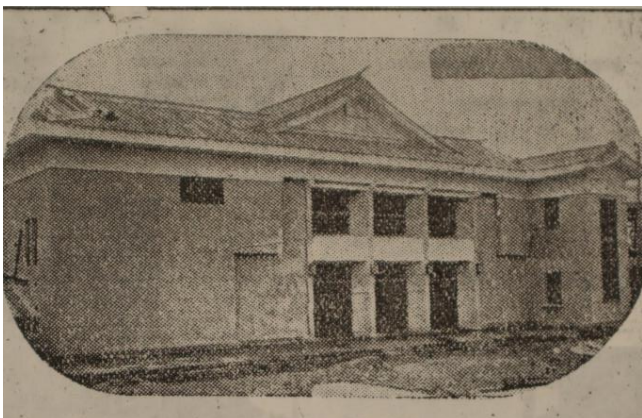
『昭和 7 年 市勢要覧』川崎市、1932

川崎市市民会館 【開館：昭和 16 年(1941) 7 月】



『川崎市公報』No.127 川崎市、1941

川崎市公民館 【開館：昭和 24 年(1949) 7 月】



『市政時報』第 4 号 川崎市、1949

川崎市産業文化会館 【開館：昭和 42 年(1967) 3 月】



『市政だより』No.316 川崎市、1968

皆さん、お住いの地域にある市民館・公民館などの「社会教育施設」を利用した経験はありますか。

川崎市公文書館では、2026年3月7日（土）から5月10日（日）にかけて、川崎市平和館で開催している「川崎大空襲記録展」の一部スペースを利用し、当館所蔵資料を中心とした出張展示を実施しました。

今回は、「社会教育施設が映す戦争の時代—官・民が交差する公共の「場」—」と題して、行政と地域住民それぞれの活動拠点として利用される「社会教育施設」

」に注目し、戦前・戦中・戦後における類似施設の変遷を解説しています、また、これらの施設で実施されたイベントや事業を取り上げることで、大正デモクラシーによる市民活動の隆盛、それが徐々に戦時体制へと近づき、さらに戦後復興を遂げていく、当時の本市の様子を紹介しています。

本展示では、各時期での世相を見通すにあたって、現在の「教育文化会館」へとつながる、公会堂、市民会館、公民館などへ焦点を当てています。

川崎今昔写真館

－昭和20年の川崎駅前－

今回は戦時中、陸軍のグラフ紙を発行していた東方社のカメラマン林重男氏が、川崎空襲後の昭和20年6月8日に撮影した京浜急行本線、京浜川崎駅（現京急川崎駅）周辺の通勤風景の写真を、現代の同じ場所の写真と併せてご紹介します。

（以下のモノクロ写真は全て、林重男氏撮影。公益財団法人政治経済研究所附属 東京大空襲・戦災資料センターの所蔵です。）

【出典】

関田克孝・宮田道一『川崎市電の25年』

（ネコ・パブリッシング、2003年）

『川崎市史』通史編 4下（現代 産業・経済）

（川崎市、1997年）、262頁、263頁

『川崎市議会史』第二巻（川崎市議会議会、1986年）、103頁

『川崎市議会史』年表編（川崎市議会議会、1988年）、186頁

『川崎空襲・戦災の記録』戦時下の生活記録編（川崎市、1975年）

『川崎空襲・戦災の記録』資料編（川崎市、1977年）

京浜川崎駅前を通勤する人の列。男性は国民服、女性はモンペ姿。奥に見えるのは東京芝浦電気(株)川崎工場の建物。

【左】 L0214 【右】 L0210



京浜川崎駅前から国鉄東海道本線川崎駅方面を臨む。中央の白色の屋根は国鉄川崎駅の貨物用プラットフォーム。その奥は東京芝浦電気(株)川崎工場の建物。国鉄川崎駅前から第一京浜国道までの間は、建物疎開により空襲前から100m幅の空地帯となっており、空襲の火災から多くの市民が空地帯に避難した。

【L0224】



京浜川崎駅を背に市役所方向を望む。中央の建物は焼け残った旧小美屋デパート。昭和26年に市が敷地と建物を買収し、川崎市中央保健所として利用した。その奥には、防空迷彩を施した市役所庁舎の時計台が見える。

【L0222】



国鉄東海道本線を背に京浜川崎駅方面を臨む。道路右側の空地帯には防空壕が見える。京浜急行本線の向こう側の4本柱の構造物は、耐火構造のため焼け残った京浜映画劇場の映写室。

【L0240】

国鉄東海道本線のアンダーパス道路は石畳で、現在より幅員が狭い。その奥に見える建物は明治製菓(株)川崎工場。

【L0236】



新収蔵史料紹介！

ー職員おすすめの歴史的公文書ー

本コーナーでは川崎市公文書館で前年度新たに登録された「歴史的公文書」を紹介します。

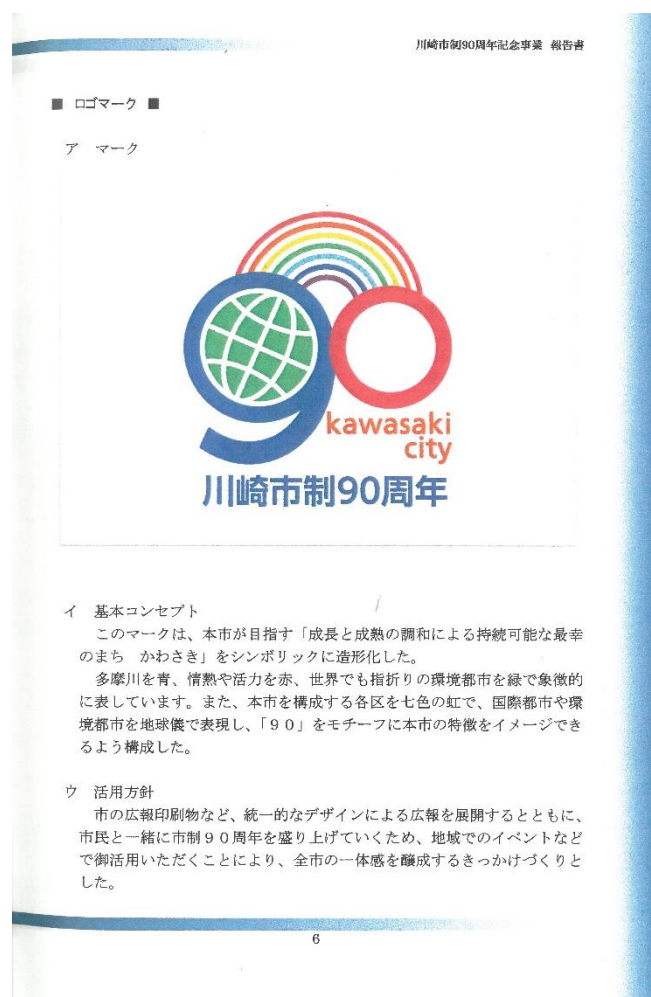
■「歴史的公文書」？

まず「歴史的公文書」とはどういったものなのでしょうか？ 川崎市において作成・取得された公文書にはそれぞれ一定の保存期間が定められており、時期がくると廃棄されることになっています。川崎市ではこれら廃棄された公文書のうち、「歴史的文化的価値のある」公文書を選別し、「歴史的公文書」として保存することとなっています。公文書とは一般的に「国や地方公共団体の機関または公務員が、その職務上作成する文書」（小学館『デジタル大辞泉「公文書」の意味・読み・例文・類語』コトバンク参照（2026年3月13日アクセス）とされます。「歴史的公文書」の候補には市制施行以降から現在にいたるまで市において作成されたこのような文書（電子データも含む）に加えて、いまだ川崎町（～大正13〔1924〕年7月1日）だった時代に作成された町の公文書、川崎市として合併された町村の合併以前に作成された公文書も含まれ、選別されることとなっています。

それではどのような公文書が「歴史的文化的価値のある」「歴史的公文書」として選別されるのでしょうか？ この点は「川崎市公文書館における歴史的公文書等の収集及び保存に関する要綱」第3条の別表（「歴史的公文書等選別基準」）で定めており、「市政の施策、企画を具体的に示しているもの」から「災害対策並びに災害発生時の調査、報告及び処置に関するもの」「国際交流等に関するもの」に至るまで幅広い基準のもとに公文書が選出され、「歴史的公文書」となることとなっており、これら要綱や選別の基準はHPにも公開しています。

■『市制 90 周年記念事業関係書類』

今回ご紹介する簿冊は『市制 90 周年記念事業関係書類』です。2024 年に川崎市は市制 100 周年を迎えましたが、この簿冊は市制施行 90 年を迎えた 2014 年に川崎市がそれを記念して開催した事業を伝えるものとなっており、実際に当時頒布されたパンフレットなども綴じられています。このうち『市制 90 周年記念事業報告書』は 2014 年に行われた 90 周年記念式典の様子を伝えています。



当時開催された記念式典の様子に少し触れてみましょう。記念式典は同年7月1日に10:00~12:30にわたってミューザ川崎シンフォニーホールで催されました。プログラムは二部構成となっており、まず坂戸小学校合唱団によるオープニング合唱にはじまり、動画の視聴「映像で振り返る90年のあゆみ」、市長による式辞や市制90周年記念表彰授与式などが行われています。第一部最後は新城郷土芸能囃子曲持保存会による「川崎民俗芸能」の上演が行われています。第二部では東京交響楽団による演奏があり、坂本九「見上げてごらん夜の星を」「上を向いて歩こう」も登場します。この式典には表彰を受ける109名、来賓・招待者800名、市民招待者等230名ほど約1,200名が出席した催しとなったことが分かります。このほかこの簿冊には、90周年に際して使用された事業テーマ「川崎を一步先へ、もっと先へ」の趣旨、ロゴマークとそのコンセプト、冠付け事業などの記録も伝えており、冠付け事業としては庁内事業151、庁外事業37の事業についてその概要が分かるものとなっています。



川崎市に関わる「古文書」を探してます

当館では、川崎市に関わる江戸から昭和期までの「古文書」など、歴史資料をひろく調査・収集しています。よく分からない、または置場がなくて困っている「古文書」などがご自宅にございましたら、是非当館までご連絡、ご相談ください。歴史担当が懇切丁寧に対応いたします。なお、相談以外にも「古文書」の所在地についても情報提供を受け付けています。貴重な「古文書」が散逸してしまうことを防ぎ、川崎市の歴史を語る「古文書」を守っていくため、皆様のご協力を何卒いただきたく、宜しくお願いします。

出来事とお知らせ

■今後の行事予定

第一回 入門古文書講座

- 【開催日】 8月22日(土)、29日(土)、9月5日(土)
 【時間】 14時～16時
 【場所】 川崎市生涯学習プラザ 301会議室
 【講師】 布川 寛大(当館職員)
 【定員】 40名 【受講料】 2000円(テキスト代含む)
 【申込】 7月1日(水)～8月12日(水)

LoGo フォーム⇒



第一回 入門古文書講座 ステップアップ編

- 【開催日】 10月上旬を予定
 【時間】 14時～16時
 【場所】 川崎市生涯学習プラザ
 【講師】 下田 悠真(当館職員)
 【定員】 30名 【受講料】 1500円(テキスト代含む)
 【申込】 8月ごろ募集開始予定

■令和7年度の活動

- 12月 入門古文書講座(冬)(11月29日/13日、23日)
 第7回 「川崎の歴史の本」編集懇談会(11日)
 「川崎の歴史の本」の書名決定
 ⇒『川崎歴史100年』

- 1月 第二回 入門古文書講座ステップアップ編
 (24日、31日)

- 2月 第8回 「川崎の歴史の本」編集懇談会(5日)

- 3月 歴史講演会 「田中丘隅における文芸と経済」(8日)
 【講師】 小室正記氏(慶応義塾大学名誉教授)

■令和8年度の活動予定

- 4月 第21回 企画展「川崎の近世史を辿る」
 (1日～9月30日)

「川崎の歴史の本」編集懇談会

- 6月 「川崎の歴史の本」本のPRプランを考え、発表するワークショップ&コンテストを開催
 「川崎の歴史の本」本に掲載される「身近な川崎の歴史スポット」を募集

- 7月 「川崎の歴史の本」編集懇談会
 「川崎の歴史の本」本のPRプランを考え、発表するワークショップ&コンテストを開催

- 8月 第一回 入門古文書講座

- 9月 「川崎の歴史の本」編集懇談会

- 10月 第一回 入門古文書講座ステップアップ編
 「川崎の歴史の本」区民祭等でアンケート投票を実施

- 2月 「川崎の歴史の本」試し読みリーフレットを配付

- 3月 「川崎歴史100年」完成・発行

■開催中の展示

【常設展】

- ① 川崎市公文書館 - 川崎市公文書館の役割 -
- ② 川崎市域の変遷 - 川崎市の成り立ちとその広がり -
- ③ 公文書の変遷 - 近世から近現代まで -

【企画展】

第21回 川崎の近世史を辿る ←New

【小展示】

Vol.6 「川崎」を探せ! ランキングの江戸時代

【特設コーナー】

「市史」の時代 - 市制40周年の『川崎市史』編さん事業 -

利用案内.....

【入館料】 無料

【開館時間】 8:30-17:00

【休館日】 月曜日、祝日法に定める休日

(休日が月曜日に当たるときは翌日も休館)
 年末年始(12月29日から1月3日)

